

「クロスカリキュラム授業」指導案

授業者	授業日・実施教科
	1月20日・2学年「SCII」
クロスする教科・科目	実施可能時期
理科（×国語）×英語	1年生後半～

1 実社会、実生活から生じる問いや課題（本時のテーマ）

伝わる文章を書くにはどうしたら良いか

2 身につけてほしい学際的な見方・考え方（クロスする意義）

小論文や学術論文等の意見文や説明文を書くときには日本語、英語に限らず「パラグラフライティング」が有効。逆に「パラグラフリーディング」も短時間で筆者の主張をつかむのに効果的。

3 展開

	教科科目1「 理科・国語 」	教科・科目2「 英語 」
導入 5分	①「伝わる文章を書くにはどうしたらいいか」というテーマを導入する（5分）。	
展開 50分	<p><1小論文>25分</p> <p>②群馬大学医学部小論文「対面医療にない遠隔医療の価値とはどのようなものがあるか。あなたの考えを300字以内で書きなさい」に取り組む（10分）。</p> <p>③「パラグラフライティング」について説明する（重要なことから書く。トピックセンテンス、サポートセンテンスの順に、パラグラフ単位で書く）。</p> <p>④②で書いた文章を「パラグラフライティング」する。書いた文章を数人で確認しあう（15分）。</p> <p><3学術論文>5分</p> <p>⑧学術論文を書くときには、「パラグラフライティング」をしないと研究室のボスから怒られるというエピソードを話す。大学の先生が読む入試の小論文も同様。</p> <p>⑨生徒の研究論文のBefore→Afterを示して、「パラグラフライティング」によって読みやすくなっていることを確認する。</p> <p>⑩学術論文は「パラグラフライティング」されているというルールがあるため、トピックセンテンスだけで読んで内容を知ることができ、たくさんの先行研究を短時間に調べることができることを伝える。</p>	<p><2英文>20分</p> <p>⑤欧米では「パラグラフライティング」が幼い頃から学習されており、英文の意見文や説明文ではかなり意識して書かれていることを説明する。</p> <p>⑥逆に英文を読むときは「パラグラフリーディング」をすると、筆者の言いたいことの全体像がつかめることを説明する。</p> <p>⑦英文を「パラグラフリーディング」し、筆者の主張を要約する（15分）。</p>
まとめ 5分	<p>⑫課題研究で研究レポートをまとめるときに「パラグラフライティング」を意識することを伝える。</p> <p>※Chromebookで英語の論文を調べて、パラグラフリーディングしてみると練習になることを伝える</p>	⑪「パラグラフライティング」は英語の教科書に書かれているが、日本語であっても意見文や説明文を書くときに意識すると効果的であると伝える。